

卒業生講演会

12月14日（木）、進路指導部の主催で1年生を対象とした卒業生講演会が行われました。毎年、社会で活躍する社会人の方にお話をいただき、将来の職業を考える機会とするものです。城北会の協力を得て、今年度は3名の卒業生の方にお話しいただきました。

大橋 晃太（おおはし こうた）氏<平成3年卒>



トータス往診クリニック院長



東京大学工学部、同大学院を修了し博士号を取得。この間、急性白血病を患い、治療中に会った方々との交流の中で医師をめざし、東京医科歯科大学医学部に学士入学。高校時代は、戸山祭の演劇や映画の中心スタッフとして周囲の人の笑顔を見るのが好きだった。医師の仕事をしていても原点はそこにあるような気がする。高校時代は無駄と思うことも含めて学校生活の様々なことにチャレンジして、好きなことを見つけて欲しい。

箱田 英子（はこだ えいこ）氏<昭和51年卒>

森・濱田松本法律事務所 弁護士

東京大学教養学部教養学科（人文地理）を卒業後、現法律事務所にスタッフとして勤務。結婚、子育てをしながら、司法試験に合格、現事務所に弁護士として入所。弁護士の仕事といっても幅広い分野があり、いろいろな仕事ができる。高校時代は硬式テニスでインターハイに出場、大学で戸山の硬式テニス部設立に尽力。将来を考える時、一つの仕事について単純なイメージではなく、幅広い内容があることを知って欲しい。



野瀬 正夫（のせ まさお）氏<昭和46年卒>

オフィス PbyP 元 NHK アナウンサー



横浜市立大学商学部を卒業後、NHKに入局。主にスポーツ部門を担当し、W杯サッカーや夏・冬五輪、野球、ゴルフなどを中継した。放送の世界で「事実を正確に伝える」ということは日常生活にも生かせる。その際、大きな目で構成のバランスを見ることも大切。人生は野球のようで、練習でできないことは試合でもできない。高校時代は、目の前のことに全力で取り組み、失敗から学びつつ大きな目標に向かって努力して行って欲しい。

<生徒からのお礼の言葉>

<城北会の皆さんと>

